

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。今年度も保護者・地域住民の皆様には学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組めます。保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には、学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は小学校6年生、中学校3年生は全国学習状況調査、その他は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、今年度から国語、算数(数学)共にこれまでのA問題、B問題の区別なく「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題調査となりました。また、今年度は、中学3年生において、3年に1度の英語の「話すこと」調査も実施されました。

各学校のホームページには、学校ごとの分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、あわせてご覧ください。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H27 入学 現5年	67.1 (1.03)		62.8 (0.96)	
H26 入学 現6年	68.3 (1.03)	66.0 (1.03)	70.2 (0.99)	66.0 (1.00)
H31 正答率の全国比		(1.03)		(0.99)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○現5年生

国語は県平均を上回り、算数は県平均とほぼ同じであり、おおむね良好な学力状況である。特に国語の「読む」は県平均を5.4ポイント上回り、叙述を基に登場人物の気持ちの変化を捉えたり、事実と意見とを区別して読んだりすることがよくできている。逆に、算数の「考え方」は県平均を6.7ポイント下回り、示された説明を解釈して問題を解くことに難点があり、指導に重きを置かなければならないところである。

○現6年生

国語は県平均を上回り、算数は県平均と同じであり、良好な学力状況である。5年時と比較すると国算ともに同等であり指導の成果と言える。特に算数の「知識・理解」は県平均を5.5ポイント、全国平均を4.9ポイント上回り、数量や図形についての知識・理解がよくできている。特に落ち込んでいる観点は無い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「めあて」から「まとめ」「振り返り」に至る一連の学習過程をどの教科においても基本とする。児童自らが問題解決していく過程を大切にするとともに、学習規律を身に付けさせて、落ち着いて授業に臨ませる。
- ・ICT機器の充実という環境に恵まれている。電子黒板、タブレット等、今後も大いに活用した指導を推進する。そのため、ICT利活用の職員研修を設定して、機器を有効に活用した授業実践に努める。
- ・算数科を中心に、TTや少人数指導を継続し、個別の対応の機会を増やして理解度を深める。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・6年目となる全校一斉の「家庭学習ノート」を継続して取り組む。書き方や点検方法の見直しを図り、よく書けている児童を賞賛したり、手本となるノートを掲示したりする。全学年このノートの取組が習慣となっており、学年が上がるにつれて内容が充実し、要領よく書けるようになってきている。
- ・月1回火曜6校時に、4・5・6年生の「学力向上タイム」に全職員で取り組む。4月調査や12月調査の過去問を解かせ、解説をする。問題形式に慣れさせるとともに、じっくり問題に取り組む姿勢を育む。
- ・週3回の「花まるタイム」により、計算力や視写力をつける。